

「籠の中」

—初稿—

2026/5/4

脚本 太郎

〈人物表〉

淀川 文夏

(17)

殺人者、高校生

霧崎 宴蔵

(70)

殺人者

春野 綜

(43)

殺人者

1. マンション・7階・廊下（夜）

淀川文夏（17）、足早に歩いている。挙動不審に辺りを伺いながら。衣服が乱れている。

× × ×

エレベーターの駆動音がし始める。

霧崎宴蔵（70）、ゆったりとした足取りで歩いている。

エレベーターの駆動音、徐々に大きくなっていく。

宴蔵の手にはクーラーボックス。

宴蔵、嫌らしい笑みを浮かべる。

エレベーターの開く音。

2. マンション・エレベーター内（夜）

エレベーターは下降している。

淀川と宴蔵、並んで立っている。

淀川、宴蔵の持つクーラーボックスをちらちら見る。

宴蔵、面白がるように、

宴蔵 「気になりますか？」

淀川、ギョツとして口ごもる。

エレベーターが止まる。

扉が開く。その先には春野綜（43）。

綜、全身血塗れ。顎の先から血がたららのように滴っている。

手には包丁。そこからも血が滴っている。

淀川、息を呑む。

宴蔵、失笑。

綜、無然とした態度でエレベーターに入ってくる。

淀川、後ずさって壁にぶつかる。

扉が閉まる。

エレベーター下降。

綜、二人の視線を感じ苛立った様子で、

綜 「何すか？」

淀川、過呼吸気味になりながら何度も首を振る。

宴蔵、鼻で笑う。

その時、激しい地震が起こる。

宴蔵、派手に倒れる。

クーラーボックスが落ちる。

淀川、しりもちつく。

綜、踏ん張る。

すぐに耐えきれなくなり、膝をつく。

エレベーターが停止。

地震が収まる。

綜、立ち上がる。

舌打ち。

淀川、起き上がろうとするも、力が抜け、すぐに座り込む。

宴蔵、辺りを見回す。

ニヤニヤし、鼻で笑って、

宴蔵 「誰も動きませんか。主体性がないですなあ」

よろよると立ち上がる。

宴蔵 「こんなおいぼれを働かせるなんてねえ」

操作盤の方に歩いていく。

宴蔵 「良いですか？ こういうときは……」

インターホンに指を添え、

淀川 「駄目」

宴蔵、振り返る。

その顔は嫌らしく笑っている。

宴蔵 「何ですか？ 何故止めるんです？ 何か後ろめたいこと

でもあるんですか？」

淀川 「いえ……」

綜、無然と、

綜 「何かまずそうな顔だな」

宴蔵 「あなたはもつとまずいでしょ」

綜、宴蔵のクーラーボックスを包丁できし、

綜 「アンタこそそのクーラーボックスの中、何が入ってるんだ？」

宴蔵、嬉しそうに笑って、

宴蔵 「気になる？ 気になっちゃいます？」

淀川、必死に首を振る。

宴蔵 「いやお嬢さん、もうやめましようよ。分かっているんですから。ここにいる三人全員人殺しなんでしょう」

淀川、涙目で、

淀川 「違う……わたしはやってない。わたしは違う」

宴蔵 「血の匂いが濃すぎる」

淀川を指さし、

宴蔵 「誰か殺した直後つてところでしょう」

綜を指さし、

宴蔵 「あなたはほぼ現在進行形で殺人中でしょうが」

自分を指さし、

宴蔵 「そしてわたしは、埋めに行く処です。ちょっとずつやってまして、今日ようやく頭に取り掛かるところだったんですよ」

自慢げに笑って、

宴蔵 「ほら見てください、自慢の妻です」

クーラーボックスを開いて中身を見せる。

綜、感心した様子で、

綜 「わお、美人」

淀川、悲鳴を上げる。

宴蔵、照れたように笑って、

宴蔵 「でしよう、そうでしょう」

直後に宴蔵、綜にクーラーボックスを投げつける。

綜、クーラーボックスを弾き飛ばすも、よろめく。

宴蔵が懐からナイフを取り出す。

振りかぶる。

淀川の悲鳴。

直後、エレベーターが動き出す。

急降下。

宴蔵がしりもちをつく。

綜、手すりを掴んで踏ん張る。

エレベーター、徐々にスピードを弱める。

綜が駆け出す。

綜、宴蔵の首に包丁で一閃。

エレベーターが停止。

宴蔵、目を見開いて、神妙な表情で、

宴蔵 「こおれが死ですかあ」

血が飛び散る。

淀川の悲鳴。

宴蔵が倒れる音。

淀川、何度もエレベーターのドアを叩く。

エレベーターのドアが開く。

その先には一組の若いカップル。

カップル、悲鳴を上げる。

淀川も悲鳴を上げる。

3. マンション・1階・エレベーター前（夜）

淀川がカップルをかき分けるようにして走り去る。

包丁が空を切る音。

壁にカップルたちの返り血が付着。

4. コンビニ・店内（夜）

血塗れの淀川が入店。

よろめきながら数歩進む。

店内が騒然となる。

淀川、顎の先から血がつららのように滴っている。

手に持った血まみれの包丁を振り回し、

淀川 「助けてください、お願いします、助けてください」

血があちこちに飛び散る。

淀川、ハツとしたように包丁を見る。

宴蔵と同じ嫌らしい笑みを浮かべる。

包丁を掲げて辺りを見回し、

淀川 「気になりますか？」

終